

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	<p>携の場をつくる</p> <p>② 様々な分掌で定期的な連携の場をつくる</p> <p>把握する</p> <p>① 3校の取り組みや実態を</p>	<p>① いずれかの分掌でブロック会を行う。(生徒会・児童会か外国語)</p> <p>② 管理職や事務職員を含んだ連携会議を開催する。</p> <p>③ 北陵ブロックの子どもの実態を分析する。</p>	<p>① 北陵ブロック授業スタンダード案を考える(研究授業等で)</p> <p>② 1分掌以上で定期的なブロック会を行う。</p> <p>③ 小中で子どもが連携している行事を行う。(続けて取り組めるもの)</p>	<p>① 連携が必要な分掌を精査し、定期的な連携ができている。</p> <p>② 北陵ブロック授業スタンダード案を実践した研究授業を行う。</p>
確かな学力の育成	<p>確かな学力の定着を図る。</p> <p>自ら考え、学び合う学習を通して</p>	<p>研究授業 教科(算数)・人権研修会の実施</p> <p>山手台プランの実施及び検証</p> <p>朝学習(モジュール学習)</p> <p>家庭学習の手引きの検討</p> <p>あゆみ 評価項目の検討</p> <p>学習・生活アップ週間の実施</p> <p>学校自己診断(保護者)の実施</p>	<p>研究授業 教科・人権研修会の実施</p> <p>山手台プランの実施及び検証</p> <p>朝学習(モジュール学習)</p> <p>家庭学習の手引きの検討</p> <p>学習・生活アップ週間の実施</p> <p>学校自己診断(児童)の実施</p> <p>グローイングアップ計画の検証</p>	<p>研究授業 教科・人権研修会の実施</p> <p>山手台プランの実施及び検証</p> <p>朝学習(モジュール学習)</p> <p>家庭学習の手引きの検討</p> <p>学習・生活アップ週間の実施</p> <p>学校自己診断(教師)の実施</p> <p>グローイングアップ計画の検証</p>
豊かな人間性を育む	<p>の育成。</p> <p>一人ひとりの命と人権を大切に、多様な個性・生き方を尊重し合える児童</p>	<p>道徳教育全体計画別様の作成と全教員の共通理解</p> <p>特別の教科道徳の授業研究</p> <p>規範意識を高める取組みの実施</p> <p>家庭・地域への啓発</p> <p>全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証</p>	<p>道徳教育全体計画に基づく実践、別様の検証</p> <p>特別の教科道徳の授業研究</p> <p>規範意識を高める取組みの実施</p> <p>家庭・地域への啓発</p> <p>全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証</p>	<p>道徳教育全体計画に基づく実践、別様の検証</p> <p>特別の教科道徳の授業研究</p> <p>規範意識を高める取組みの実施</p> <p>家庭・地域への啓発</p> <p>全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証</p>
健康・体力の増進	<p>を実践し、健康・体力の保持増進を図る。</p> <p>運動に親しむとともに食をはじめ規則正しい生活を</p>	<p>スポーツテスト全学年実施及び検証</p> <p>体育職員研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動 ・水泳指導 <p>なわとび週間</p> <p>ドッジボール週間</p> <p>学習・生活アップ週間</p> <p>食育・保健指導の充実</p> <p>全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証</p>	<p>スポーツテスト全学年実施及び検証</p> <p>体育職員研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上運動 ・器械運動 <p>なわとび週間</p> <p>学習・生活アップ習慣</p> <p>食育・保健指導の充実</p> <p>全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証</p>	<p>スポーツテスト全学年実施及び検証</p> <p>体育職員研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現運動 ・体づくり運動 <p>なわとび週間</p> <p>学習・生活アップ習慣</p> <p>食育・保健指導の充実</p> <p>全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証</p>
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

良好な結果であった

④言語事項

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

該当設問無し

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・問題番号1 図書館への行き方の説明として適切なものを選択する問題について、正答率が最も高かった。

・文の中で漢字を使う問題について、無解答率が高い傾向にあった。中でも、問題番号8ーオ「せっ極的(積極的)」の漢字を書く問題の正答率が最も低く、無解答率も最も高かった。

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

該当設問無し

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

該当設問無し

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・問題番号1ー【話し合いの様子の一部】における発言の意図として、適切なものを選択する問題について、正答率が最も高かった。

・文の中で漢字を使う問題について、無解答率が高い傾向にあった。中でも、問題番号8ーオ「せっ極的(積極的)」の漢字を書く問題の正答率が最も低く、無解答率も最も高かった。

分析

国語ABともに、「話すこと・聞くこと」に関する問題について、正答率が高い傾向にあった。

国語Aに関しては、「読む」に関する問題の正答率が高かった。国語Bについては、「目的や意図をとらえる」ことを趣旨とした問題が全国平均と比べ、高い傾向にあった。これは前年度まで研究教科であった算数科で目指した「問題の趣旨を読み取る」力の育成が、国語科でも有効であることを証明した結果であるといえる。

しかし、「言語についての知識・理解・技能」に関する問題の正答率が低かった。特に漢字を正しく使うことに課題が見られる。また、解答方式が記述式になっている問題、さらに選択問題であっても、問題番号が後になるにつれて、無解答率が上昇していく傾向にあった。発問を中心とした授業から『言語活動』を中心とした授業づくりを行い、児童自ら計画を立てて、主体的に学習する態度を育てたい。

本校では、今年度より研究教科を国語に設定した。これまでも大切にしてきた「丁寧な読み」や「使える語彙」のさらなる充実、ノートを書き、「自らの学びを残す」ことなど、基礎的な学習習慣の確立、発展を目指していく必要がある。

○●算数●○

算数

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

該当設問無し

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

正答率の高かった設問は、5 (1) 角の大きさが180度であることを答える問題、4 (1) 面積がそろっているシート of の混み具合を比べる問題が挙げられる。

正答率の低かった設問は、2 答えが「 $12 \div 0.8$ 」の式で求められる問題文を選ぶ問題、7 (1) 円周率を求め式として正しいものを選ぶ問題が挙げられる。

算数

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

正答率の高かった設問は、1 (1) 合同な正三角形の敷き詰めに関する問題が挙げられる。
正答率の低かった問題は、棒グラフ、帯グラフに関する問題が挙げられる。

記述を伴う問題については、特に無解答率が高い傾向にあったため、「考えを表現する」という点で課題が見られるといえる。

分析

算数 A については、「小数」に関する問題、「円周率」に関する問題で正答率が低い傾向が見られた。

小数に関する問題では、数量や式と問題場面や数直線との関係が問われていた。四則計算については、筆算をはじめとする計算技能と、その結果の正確性の向上のみが重視される傾向にあるが、今後は、問題場面や図、式、数値を相互に関係づける力もこれらの力と同時に問われる。本校で行われている自ら見通しを持ち、考え、表現する「問題解決学習」のさらなる推進を目指していきたい。円周率に関する問題についても、「公式」の定着のみにとらわれず、様々な場面で活用できるように学習を構成する必要がある。

算数 B は問題が生活場面に即して作成されており、比較的読み取りやすかったことが、概ね良好であった結果に関係しているのではないかと推測する。しかし、グラフとメモを関連付けて内容を読み取ったり、棒グラフと帯グラフから内容を読み取る問題については、課題が見られた。数値の総数や変化に着目することも大切であるが、変化の理由やグラフで伝えたことなど、その背後にある情報を想像できる力についても、注目していくべきである。

新指導要領でもあるように、これまでの「教える (教えてもらう)」、「覚える」学習から、「自ら学び取り、自ら使う」学習へ、求められる学力観が変遷している。このことを全教員がしっかりと把握し、実践していくことが不可欠である。

○●理科●○

(領域ごと)	
①物質	概ね良好な結果であった
②エネルギー	良好な結果であった
③生命	良好な結果であった
④地球	概ね良好な結果であった
(問題形式)	
①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった
(無解答率)	概ね良好な結果であった

正答率の高かった問題については、4（2）2つの異なる実験方法から得られた結果をもとに判断した内容を選ぶ問題、1主に生命に関する問題が挙げられる。

正答率の低かった問題は、2（3）実験結果とその理由を問う問題、3（4）太陽の位置と光電池に関する問題が挙げられる。
記述を伴う問題で特に正答率の低さが目立つ結果となった。

分析

理科については、記述式の問題で、正答率の低さが目立つ結果となった。逆に選択問題、とくに科学的な言葉や概念の理解については、おおむね良好な結果であるといえるため、学習内容の定着は図れているといえる。また、「生命」の区分において、高い正答率が見られた。本校の立地条件を生かし、豊かな自然に、直に触れる経験を大切にされた教育が実を結んだ結果であるといえるのではないだろうか。

特に正答率の低い問題を見てみると、問題で求められていることは、共通して「実験結果を分析、考察する」ことであった。実験を行った際、教科書に記載のあるような「(成功すれば、) こういった結果が得られる」ということだけでなく、「なぜ、その結果が得られたのか(得られなかったのか)」、「条件を変えれば、得られる結果どう変わるか」など、考察することが必要となる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語A、算数Aともに、前年度より基礎的な学習にかかわる問題（漢字の書き取り、基礎的な知識・技能に関する問題）を中心に正答率が低下した。

しかし、国語B、算数Bにおいては、過去5年の中でも、正答率が比較的高かった。本校が算数科を中心に研究、推進してきた「思考・表現力」の育成は着実に成果をあげていると考えられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層が昨年度調査に比べ、数値の上昇が見られる。学力低位層の数値が昨年度より増加しており、それに伴って、エンパワー層の数値は昨年度より若干増加しているが、過去5年で比較すると低い数値を維持できている。

今後も、低位層の学力の底上げ、高位層のさらなる上昇を目指して、取組みを推進していく必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

授業づくり

- ・「自分の考えを 多様な方法で表現し 交流しあえる子ども」のテーマにそって各学年が研究授業に取り組み、授業力の向上を図る。
- ・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る。
- ・問題解決学習の推進。
- ・授業の視覚化、構造化、協働化の定着
- ・効果的なICT機器の活用、支援教育コーディネーターと学習サポーターとの連携、
- ・習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導
- ・山手台スタンダード、100点筆箱、学習のルールへの定着
- ・校内研修会の実施

基礎的な学力の育成

- ・朝学習の充実・・・なかよし学びタイム・外国語モジュール学習
- ・学習サポーターと連携し、学力の向上を図る。
- ・朝の読書の実施、読書カードによる読書活動の記録化
図書館支援員と連携し、読み聞かせやビブリオバトルなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする。

家庭との連携

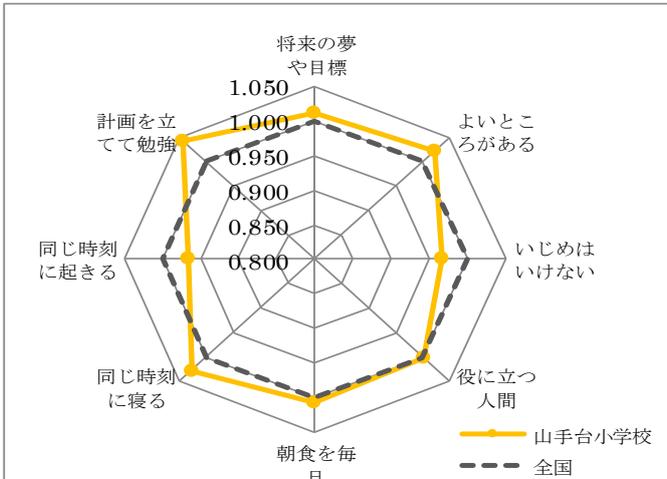
- ・学習・生活アップ週間、家庭学習の手引き
- ・家庭学習、自主学習の定着を図る。

小中連携の強化

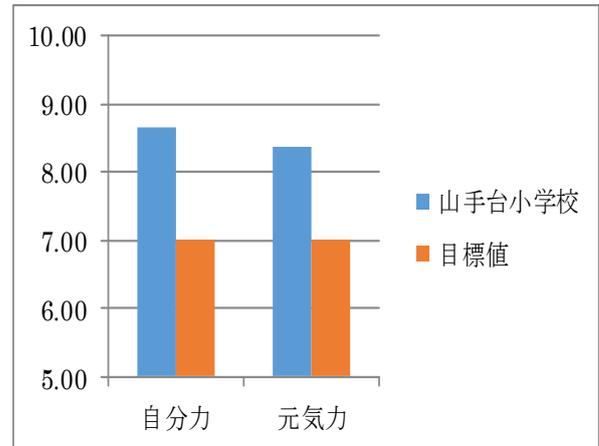
- ・小中合同研修
- ・北陵中学校校区の研究授業の実施
- ・交流会の実施

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

「ゆめ力」(将来展望を持ち努力できる力)

- ・将来の夢や目標をもっている子どもたちについては、「あてはまる」「ややあてはまる」を含め、8割以上を占めている。

「自分力」(規範意識を持ち、自分をコントロールできる力)

- ・「自分によいところがある」と感じている割合を高めるために、自己肯定感や互いを認め合える意識を高める取り組みを充実させていく。

「つながり力」(他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力)

該当項目なし

「学び力」(意欲的に学ぶ力)

- ・「計画を立てて勉強をする」と答えた割合が「あてはまる」「ややあてはまる」を含めると、大半を占める結果となった。全国平均と比較しても、高い値を示しているため、今後も継続して取り組みを進めていきたい。

「元気力」(健康・体力を保持増進できる力)

- ・「朝食を毎日食べる」と答えた割合が大部分を占めている。「同じ時刻に寝る」と答えた割合に対して、「同じ時刻に起きる」の割合は全国平均を下回ったので、規則正しい生活リズムを身につけさせたい。

取組み

ゆめ力

学年に応じたキャリア教育の推進・5年生への出発式の実施
ゲストティーチャーとの出会いを通して、仕事や生き方を学ぶ

自分力

規範意識を身につける。人を思いやる気持ち、人権感覚を身につける。
自尊感情を高める。

つながり力

朝学習(なかよし学習タイム)

育ひ会(青健協)との連携、親子映画会・耐寒ハイキングの実施、地域の人たちとの交流、公民館との連携、地区運動会への参加、国際理解教育

学び力

朝の学習(基礎・基本の定着)
自分で課題を設定し、自主的に学習する力をつける。
ビブリオバトルなど読書活動の推進。

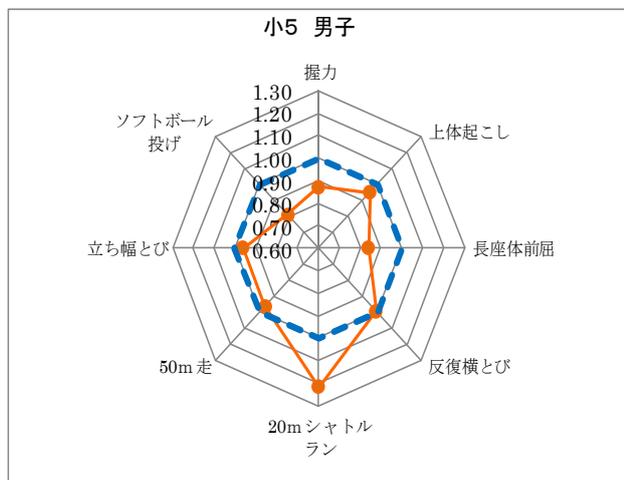
元気力

学習・生活アップ週間の実施、食育の推進

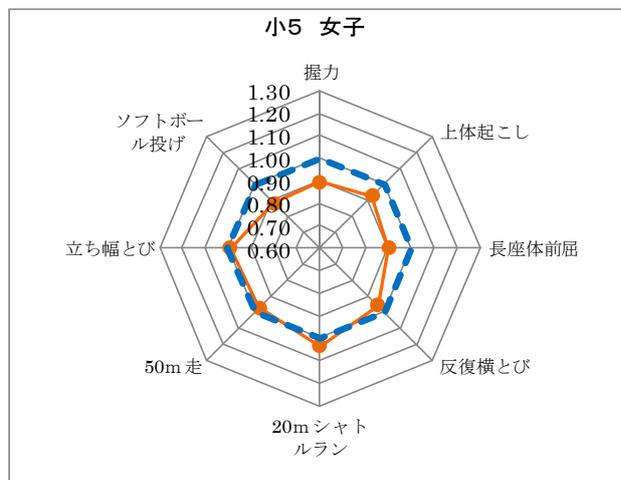
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

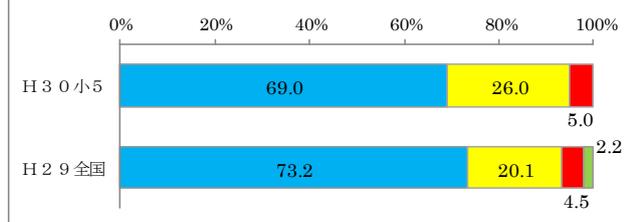
男子 (小5)



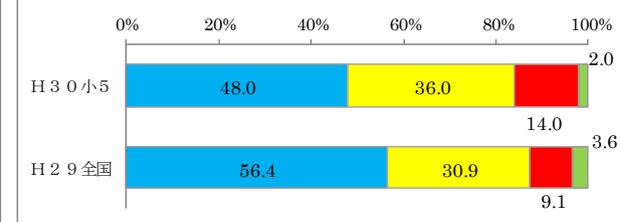
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■ 好き
 ■ やや好き
 ■ ややきらい
 ■ きらい

分析

- 男女ともに、ソフトボール投げ・上体起こし・長座体前屈・握力・50m走が全国値よりも下回っており、20mシャトルランは全国値を上回っている。
- 男子のソフトボール投げは昨年度よりも下回っている。
- 全体的に昨年度よりも下回っているものが多い。
- 運動・スポーツが好きですかという質問に対しては、例年通りの結果に近く、大きな変化は見られない。

取組み

- 投力を伸ばしていけるよう、学校全体でドッチボールを推進している。
- さらに持久力を伸ばしていけるよう、マラソン週間実施を検討する。